

口永良部島 2014 年 8 月 3 日噴火の斜め空中写真観察

[まとめ]

1. 樹幹の顕著な損傷は火口付近のみ認められる。しかし、根元からの倒木や折れた樹幹が一方向に並ぶなど強い横方向の流れを示唆するものは認められない。
2. 顕著な火災の跡は認められない。
3. 泥流の流れた跡は広範囲に認められる。

[本文]

気象庁が 8 月 5 日、6 日にヘリから撮影した斜め空中写真の基ファイルを提供していただき観察したので、その結果を報告する。

降灰域には小規模な泥流の流れた跡が多数認められる。噴火による顕著な樹幹の損傷は、平成 26 年 8 月 5 日 21 時 00 分発表の火山活動解説資料で報告された“樹木の消失”が認められた新岳山頂火口西側のみである。その他の地域は、葉の褐色化などは認められるが、枝や幹などの樹幹には顕著な損傷は認められない。新岳山頂火口西側では、折れた枝や幹は一方向などを向かずランダムな向きで点在している（図 1）。また、根元から倒木している樹木も認められない。また、噴出物が、谷で厚く、尾根で薄く堆積しているなどの特徴は写真からは認められない。さらに、今回の噴火で発生した火砕物重力流により形成されたローブ状の地形などは確認できなかった。これらの特徴から、樹幹の損傷は噴石による可能性が高く、たとえ、火砕サージなどの火砕物重力流が発生したとしても、粗粒な火砕粒子を多量に含む濃密なものでなかったと判断される。なお、気象庁が“樹木の消失”したとした地域には、樹幹の一部が黒色の樹木が顕著に認められる。しかし、延焼の煙などは、写真からは確認できなかった。また樹木の黒色の部分は必ずしも火口側を向いていない。また、火口周辺ほど顕著でないが、火口から離れた地域でも樹幹の一部が同程度に黒色に見える樹木が写真では認められる。そのため、火口近傍の黒色の樹木は、延焼によるものの可能性はあるが、慎重に判断する必要がある。

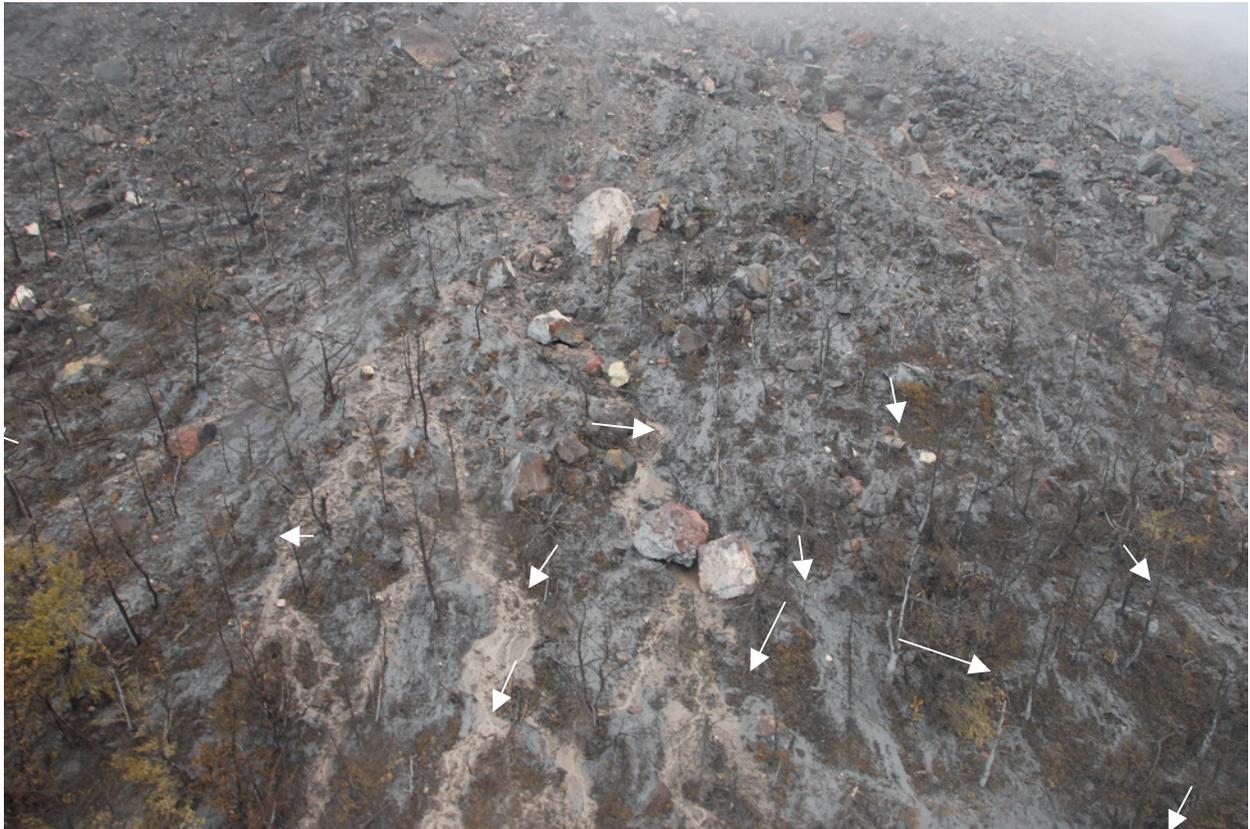


図 1 “樹木の消失”が認められる地域の写真（8月5日気象庁撮影）

写真の上の方が山頂方向で手前に向けて低くなる。矢印は、折れた樹幹の向いている方向。褐色部分は泥流の流れた跡。